

平成27年度
第2回江戸川区子ども・子育て応援会議
議 事 要 旨

日 時 平成28年2月8日(月) 午前10時から12時まで

場 所 グリーンパレス 常 盤

【議事次第】

1 開 会

2 議 事

- (1) 平成28年4月以降に開設される保育所等について
新設保育所等の状況について
利用定員の設定について
地域型保育事業の具体的内容について(認可)

- (2) 子ども・子育て世帯がかかえる課題について

3 閉 会

【配布資料】

平成27年度 第2回子ども・子育て応援会議 次第

江戸川区子ども・子育て応援会議 委員名簿

資料1 新設保育所等の状況について

資料2 平成28年度 保育所等の利用定員の設定について

資料3 地域型保育事業(小規模保育事業及び事業所内保育事業)の具体的内容について(認可)

平成27年度第2回江戸川区子ども・子育て応援会議 出欠状況

	所属機関・役職名	氏名	備考
1	文部科学省 国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部長	笹井 宏益	江戸川総合人生大学 子ども・子育て応援学科学科長
2	江戸川区私立幼稚園協会会長	田澤 茂	
3	江戸川区認可私立保育園園長会会長	秋山 秀阿	欠席
4	江戸川区立小学校長会副会長	清澤 好美	
5	江戸川区立中学校長会会長	林 和夫	
6	元保育ママの会会長	半田 直子	
7	江戸川区認証保育所連絡会共同代表	澤井 廣喜	
8	江戸川区青少年育成地区委員長会会長	○田中 稔家	
9	江戸川区青少年委員会会長	本間 英雄	
10	青少年育成アドバイザー	山本 又三	
11	江戸川区私立幼稚園協会PTA連合会会長	風間 絵理	
12	江戸川区認可私立保育園保護者連絡協議会理事長	池田 絵里	
13	江戸川区立小学校PTA連合協議会会長	山家 隆広	
14	江戸川区立中学校PTA連合協議会会長	土橋 正人	欠席
15	江戸川区立幼稚園PTA連合会会長	米山 成仁	欠席
16	認証保育所利用者代表	若生 綾子	
17	東京商工会議所江戸川支部会長	平田 善信	
18	連合江戸川地区協議会	藤吉 はるか	欠席
19	民生・児童委員協議会	矢島 雅子	
20	江戸川区医師会理事	千葉 友幸	欠席
21	江戸川区歯科医師会専務理事	根本 秀樹	
22	公募区民	岩崎 薫子	
23	公募区民	田口 洋子	欠席
24	区議会議員（福祉健康委員会委員長）	関根 麻美子	
25	区議会議員（福祉健康委員会副委員長）	中山 隆仁	
26	健康部長	松尾 広澄	
27	教育推進課長	柴田 靖弘	代理出席：武井 順 (教育委員会事務局教育推進課すくすくスクール係長)
28	子ども家庭部長	森 淳子	

委員長 ○副委員長

1 開会

2 議事

(笹井委員長) ただ今から平成27年度第2回江戸川区子ども・子育て応援会議を開会いたします。それでは、議事(1)平成28年4月以降に開設される保育所等について、事務局より説明をお願いします。

(事務局) 皆様ご承知のとおり、27年4月現在で江戸川区の待機児童は347名となり、待機児童の解消に向けて、28年4月に多くの施設の開設を予定しています。

まず、資料1「新設保育所等の状況について」ですが、これは江戸川区の地図に28年4月開設予定の施設を示したものとなります。

この一覧を施設の類型によって定員別に見たものが次の資料2「平成28年度 保育所等の利用定員の設定について」となります。こちらは、昨年9月に行われた応援会議で既に予定数としてご覧いただいておりますが、今回は子ども・子育て支援法の規定により、施設整備の利用定員を設定する際には、応援会議の委員の皆様からご意見をいただくことになっております。もし何かお気づきの点がありましたら、後ほど御意見をいただきたいと思っております。

資料2の(1)は認可保育園の新設の定員、(2)は認証保育所から認可に移る施設の定員となります。認証保育所の定員は三園合わせて79名ですが、認可に移ることによりまして209名と、130名の定員増を図っております。

(3)は、区立の清新第二保育園が、今年の4月に清新第二おひさま保育園となります。おひさま保育園は現在18園ございますので、この清新第二で19園目となります。

(4)は、現在区内には幼稚園型の認定こども園が一つありますが、二つ目の認定こども園となります。認証保育所が今年度中に分園を設置して、あわせて認定こども園に移行いたします。

それから、(5)、(6)は子ども・子育て支援新制度により新たにできました小規模保育事業となります。(7)は事業所内保育所として、基本的にはそこで勤務する企業の従業員のお子さんをお預かりする施設ですが、それ以外に周辺の地域のお子さんを一定数お預かりすることにより運営面で支援するものです。今回のこのアゼリーアネックスは、定員19名のうち半分以上の11名の地域枠を設定しております。以上が保育所の利用定員の設定でございます。

続いて、資料3「地域型保育事業(小規模保育事業及び事業所内保育事業)の具体的内容について」は、資料2(5)から(7)まで説明した小規模保育事業と事業所内保育所の具体的な内容となります。

平成28年4月1日開設の地域型保育事業は全部で6カ所あり、例えば年齢別の保育室の配置等については、事業者と区が相談をしながら決めております。その施設の特性等もありますが、十分事業者と協議をして進めておりますので、

このような形で進めさせていただければと思います。資料についてお目通しをいただけたらと思います。

(笹井委員長) ご意見やご質問等がございましたらお願いします。

(根本委員) 区立保育園について、社会福祉法人えどがわへの民営化を進めていると思いますが、今後の見通しをお聞かせください。あわせて、民営化により定員増を見込めるのかといったことも教えていただければと思います。

また、認可保育園や小規模保育所が新設されるなかで、歯科医師会へ検診の委託を相談される園もございましたが、検診は義務化されていますか。

(事務局) 子育て支援課長の浅見です。はじめに民営化についてですが、江戸川区では区立保育園全園を民営化の対象としています。一方で、今後の少子化の進行により、地域で保育園の定員に余裕が出てきたような場合には、統廃合や廃園等の選択肢も視野に入れる必要があると考えています。

また、お子さんの保育環境を考慮し、区立保育園となるべく環境が変わらない中で保育ができるように定員等は変更しないことを原則としています。

なお、現在の区立保育園では、定員の弾力化により、定員以上の受け入れをしており、更なる定員増は民営化後も難しいと考えています。

それから、資料2「平成28年度 保育所等の利用定員の設定について」の補足ですが、資料の(1)から(7)までの保育施設の定員を合わせて約450名の定員増を見込んでいます。そのうち、待機児童のいる0歳から2歳は207名の定員増を予定しています。平成27年4月の0歳から2歳の待機児童は347名ですので、その半分以上の定員増となります。今後も引き続き待機児解消に努めていきたいと考えています。

続いて、歯科検診について、子育て支援課計画係長の今澤よりお答えします。認可保育園や小規模保育所において、区では年1回以上の歯科検診をしていただくよう園にお願いしています。また、入園前の検診等も必要に応じてございますので、各園より歯科医師会の事務局等を通じて地域の歯科医の先生方にご相談させていただいているかと思います。ご多忙のところ、歯科医師会の皆様にはご負担をおかけしますが、どうぞよろしくお願いします。

(山本委員) 資料3の図面を見ると、玄関を入れてすぐに1歳児室があり、2歳児室、奥に0歳児室とありますが、何か配慮はされていますか。

(事務局) 資料3「地域型保育事業の具体的内容について(認可)」のソレイユナーサリー平井の平面図についてですが、保育室の基準の一つに面積基準がございます。年齢によって異なりますが、0歳から1歳は1人当たり3.3㎡以上、2歳は1人当たり1.98㎡以上の確保が必要とされています。このほかに、お子さまが使用するトイレ、調理室、医務スペース等の設備も必要です。なお、保育室のレイアウトは、それぞれの保育事業者の判断となりますが、例えばソレイユナーサリー平井の図面でいいますと、0歳児室と2歳児室の境には必ず柵等を設けることを区よりお願いしています。また、0歳のお

子さんはベビーベッドなどを用意していただく等で保育の質の確保を図っているところです。

(山家委員) 現在、待機児童が347名であることは分かりましたが、今後の待機児童の見込みについて、保育施設の定員増によりどのくらい減少されるのでしょうか。

(事務局) 保育課長の茅原です。今年度の4月1日時点の待機児童は347名で、内訳は0歳から2歳までとなります。平成28年度に0歳から2歳の定員を207名増やすことで、その差は140名となりますが、これはあくまで昨年の4月の状況に対する差となります。来年度の4月1日入園は、今月の23日まで受け付けていますので、最終的な待機児数はまだ確定していない状況です。

(2) 子ども・子育て世帯がかかえる課題について

(笹井委員長) 続きまして、議事(2)、子ども・子育て世帯のかかえる課題に移ります。今日は、各委員の皆様、日ごろお子さんや保護者の方と接するなかで、子育てにおける課題や感じられていることについてご意見を伺いたいと思います。特に、昨今は子どもの貧困や、生活習慣の問題などもあります。ぜひ皆様方のお感じになるところを伺えればと思います。それでは事務局より説明をお願いします。

(事務局) 児童女性課長の丸山です。「子ども・子育て世帯がかかえる課題」について説明します。

少子化が進む一方で、子どもの貧困が年々増えており、今では6人に1人が貧困と言われています。これはひとり親世帯の半数とも言われています。マスコミ等でもこの問題が取り上げられていますが、国も平成26年1月に子どもの貧困対策の推進に関する法律を施行し、「子供の未来応援国民運動」を始動しています。

それを受け、江戸川区では、未来を担う子どもたちが健やかに成長できる環境をつくるため、各団体にヒアリングを行いました。子どもや子育て世帯が抱える課題について現在、現場の状況を把握することに努めています。つきましては、日ごろより子どもや子育て世帯と接する機会が多い委員の皆様から、この課題について率直なご意見をいただき、今後の子ども・子育て施策に役立てたいと考えています。よろしく願いいたします。

(笹井委員長) それでは、委員の皆様のご意見を伺えればと思います。

(関根委員) 福祉健康委員会委員長の関根です。子どもの貧困は非常に大きな課題だと認識し、議会でも様々な議論が進められているところです。また区としても、平成28年度から、様々な形で学習支援、子どもの居場所等に対して、全庁を挙げて取り組んでいます。

子どもの貧困において、私が一番気がかりなことは、貧困の連鎖をどう止めるかということです。私は教員の経験がございしますが、子どもは自分で生

活を選べない、産まれた家庭環境で大きな影響を受けることがあります。与えられた経済的に苦しい家庭環境のなかで、そこから抜け出せず、またその子どもが同じように貧困になる連鎖という形で非常に厳しい生活を強いられています。自分の人生に対して希望を持たない子どもたちをつくってはいけなと強く思っているところです。

また、生活習慣のなかで朝食を食べることは非常に大切です。私が担任を持っていたときに、朝食を食べていない子は集中ができず、いらいらすることや、落ち着きがないことがありました。それは、学習面でも非常に大きな影響を受けます。現在、区では「早寝・早起き・朝ごはん」として、PTAや皆様とともに生活リズムを整えることに取り組んでいますが、なかなか手の届かない経済的に大変な家庭もございます。少しでも子どもたちの力になっていけるように、皆様と力を合わせていきたいと思ひます。

(中山委員) 福祉健康委員会の副委員長の中山です。関根委員長とともに、子どもの貧困対策や子育て支援について、毎月検討をしています。さらに皆様と深く話し合っ、良い方向に進められればと思ひます。

(田澤委員) 私は私立幼稚園協会会長ですが、幼稚園においても生活リズムを大事にし、関根委員からお話がありました「早寝・早起き・朝ごはん」を進めています。しかし、月曜日は他の曜日よりも遅刻してくる子どもが多い傾向にあります。土日に夜更かしをする家庭が多いことが背景にあるように思ひます。

また、寝かしつけもしつけの一つになりますが、寝かしつけることが苦手な母親もみられます。仕事の関係で夜遅く帰る父親もいますが、20時から22時頃に帰宅して、それから子どもと遊ぶとなると、朝が起きられなくなるように思ひます。

それから、居酒屋で小さなお子さんと一緒に家族で飲食をしている光景を目にすることがあります。例えば、居酒屋で子どもを連れた方々に「早い時間に帰りましょう」といった啓蒙ができれば多少違うように思ひます。少しでも子どもの健康のために改善できればと思ひます。

(半田委員) 元保育ママの会会長の半田です。私の経験の中から二つほどお話しさせていただきます。

娘がドイツで仕事をしていた際に、様々な方々にお世話になった話を聞きまして、私も何か手助けができればと思ひ、外国人の赤ちゃんを引き受けたことがありました。保護者は片言の日本語はできましたが、連絡ノート等は全て英語で書いてありましたので、最初はとても戸惑いました。インターネット等の機能を利用しながらコミュニケーションを図っていましたが、その保護者の方とは、心と心で十分伝わっていたように思ひます。その経験を機に、私も少し自信が持て、その後も様々な外国人のお子さんを受け入れてきました。その様な中で自分自身の成長に繋がるとも良い経験をさせていただきました。

また、先日テレビで外国の子育ての放送がありました。その中で、1人でたくさんのお子さんを産んで育てている母親に対して、どのように育てているのかといった取材をしており、近所の方々が母乳を分けてくださっているといったお話がありました。私が子どもの頃も、母からそういった話を聞いたことがあり、皆で助け合って子育てをしていたことを思い出しました。子育てで大事なことは、それほど難しいことではなく、例えば保育ママだったら、公園で近所の若いお母さんへ「一緒に遊ぼうよ」と声をかけたり、挨拶をしたりすることも、子育て支援の一つになると思います。声をかける、様子を見てあげる、そういった住民の方々が少しずつできることを皆で行うことができれば、良い子育て支援になると思います。

(澤井委員) 認証保育所連絡会共同代表の澤井です。事務局よりお話があったことは、二つの大きな核があると思います。

一つは、金銭的な面で非常に厳しい家庭、特に母子家庭等に対する支援だと思えます。そしてもう一つは、核家族が増加するなかでの子育て支援だと思えます。母子家庭においては、現在国でも様々な支援を検討しており、保育料は年収に応じて第2子は半額、第3子は無償という話が出ていますが、例えば、第3子は無償であり、保育園には優先的に入れる等の施策も検討の一つだと思えます。そして、子育て支援は地域、行政、保育機関等、それから保護者の四位一体の連携を持てる必要があります。

私どもの保育園では、子育て支援の一つとして、保育に欠けない子も一緒になり「親子で遊ぼう！英語リトミック」を月に1、2回ほど場所を借りて実施しています。何かしらの形で親子を支えていく場所づくりは必要だと思えます。

今お話ししたことはあくまでも一般的なことであり、虐待等の恐れがある家庭のお子さんに対して「子どもを守る会」等もありますが、住民一人ひとりがどういう形で関わっていくのかということも必要です。「隣のことは知らない」ではなく近隣の方々に相談できる地域づくりと、それからもう一つは金銭的な面での支援だと思えます。その二つが大切だと私は考えています。

(本間委員) 江戸川区青少年委員会会長の本間です。日頃は、主に小学生、中学生に対して、地域で人と人が支え合って生きていくことの大切さを伝えながら活動しています。現在61名の青少年委員があり、区内の共育プラザ6館で青少年委員会として様々なイベントを実施しています。そのようななかで、共育プラザにおいて、0歳から5歳児を連れてくるお母さんたちを多く見かけました。例えば、紙芝居をすると、子どもを抱えたお母さんたちがその前に見にきます。青少年委員は子育てが終わり、お孫さんがちょうど1歳や2歳という方もいますので、子育てに関して経験豊かだと思えます。赤ちゃんの顔色を見ながら「どうしたの」等と声をかけながらお母さんと色々なお話をしています。食事のことや、普段の過ごし方の話もありますし、お母さんから

様々な相談を受ける機会も増えてきています。これまで対象は小学生が中心だと考えていましたが、先日関係者で集まったなかでも0歳から5歳児の話になりました。私どもも、これからも温かい食事を食べられるような環境を目指しながら、地域のために頑張っていきたいと思います。

(山本委員) 青少年育成アドバイザーの山本です。私たちの活動においても、現在問題になっている子どもの生活環境に取り組んでいます。

我々が地域で活動しているなかで、例えば生活保護を区に申請したけれども断られてしまい、生活をしていくなかでどんどん詰まっていく方もいます。生活保護の申請内容については慎重に見ていってほしいということがまず一点あります。

もう一点は、相談に行けない人もいます。私が地域で活動しているなかで、集合住宅にお住まいのひとり親の方がいますが、その方が病気になり動けなくなりました。小学生と3歳のお子さんがありますので「相談に行かないのですか。」と聞いたところ「動けない。病気でお医者さんに通えない状態。」と返事がありました。そのような方をどうやって助けてあげたら良いのだろうかと思いますし、日本ではそういった制度が整っていないように思います。

例えば、カリフォルニアでは、14歳以下の子どもが夜1人でうろろうしている、公的な機関の方が来て、子ども達は保護されるそうです。日本では乳児院や児童養護施設等がありますが、行政が積極的に関わっていくことは余り聞いたことがありません。自治体の施設において、細かく目を配る配慮があればと思います。また、江戸川区は地域住民の方々がボランティアとして協力してくれる人が多くいらっしゃると思います。

(風間委員) 江戸川区私立幼稚園協会PTA連合会会長の風間です。子どもの6人に1人が貧困世帯という数字を聞くと、クラスに何人もいるように感じましたが、私が知っている友人や学校の中で余りそのような話を聞いたことがないのが現状です。お子さんは習い事をして、洋服もきれいにされている方が多くいらっしゃるのでは、本当に6人に1人が貧困家庭で育っているのかといったことを感じています。

また、先日江戸川区で食育に関する会議に参加させていただいたときに、貧困の家庭の食卓には野菜が並ぶことは少ないといった話がありました。学校給食でさまざまな野菜を食べさせていただけることは、食育やそういった面から考えても素晴らしいことだと思います。

ひとり親の方のなかには、フルタイムで働いていてもなかなか高い賃金はいただけず、決して裕福ではないといったご家庭もあるとは思いますが、それほど貧困で困っているというご家庭が私の周りではありません。実際に非常に困っている方は、自分から相談に行くことや解決策を見出すことはできるのでしょうか。また、私自身が何をしていけば良いのかといったことも教えていただきたいと思います。

(笹井委員長) 今のご質問について、後ほど事務局よりお答えいただければと思います。

(池田委員) 江戸川区私立認可保育園保護者連絡協議会の理事長の池田です。私も子どもの貧困について考えたときに、江戸川区としてはどうなのかといったことを疑問に思っていました。

まず、子どもの貧困について考えたときに、江戸川区の貧困率について把握されているのでしょうか。また、そういった内容の調査が今後実施されるのか、もしくは何か指標があるのかといったことを伺えればと思いました。

また、子どもに対する支援は必要ですが、その親に対する教育や啓蒙についてもぜひ行政で実施していただければと思います。例えば、子どもに愛情や関心のある親は、金銭的な支援を増やすことでより良い方向にいくと思いますが、子どもに対する愛情や関心が薄い親の場合には様々な支援が必要です。そういった親に対する支援について行政の考えを伺えればと思います。

(笹井委員長) ただいまのご意見についても、後ほど事務局よりお答えいただければと思います。

(林委員) 江戸川区中学校長会会長の林です。中学校では家庭環境調査票を提出いただけていますが、その内容をみると、ひとり親家庭は増えており、所得は減っているように思います。また、要保護、準要保護等の方に対する就学援助についても年々増加しています。一部の家庭では、いただいた補助を学校の支払いに回さない親もいますので、家庭訪問をして「お母さん、きちんと学校に払ってくださいよ。」と言わなければならないご家庭もあります。また、要保護家庭のなかには、高いスマートフォンを買い与えたりする場合があります。中学生の約8割が携帯電話かスマートフォンを持っていますので、逆に持っていないお子さんは貧困ではなく、親が「中学生では必要ないでしょう。」ときちんと説得されているご家庭だと思います。

それから先ほど委員からお話がありましたが、親の生活に子どもが振り回され、子どもが犠牲になることも見受けられます。居酒屋等で22時や23時の閉店間際まで子どもを遊ばせている家庭もありますし、コンビニエンスストアに小さなお子さんをベビーカーに乗せて買い物に来ているお母さんもいます。そういったところからも変えていく必要があると感じています。

また、先ほど「早寝・早起き・朝ごはん」のお話がありましたが、学校でも食育や生活リズムについて保護者を集めてお話していますが、なかなか浸透しません。実際には、親がやるべきことを学校で行っている部分もあります。一方で、保護者の啓発は大切だと思いますので、例えば、補助を渡す際には、保護者を集めて講義をしてから渡すようなこともせざるを得ないように感じています。

貧困家庭への支援については、例えば学習支援がありますが、学校では線引きが難しく、結局一律にやらざるを得ないというジレンマもあります。確かに塾に行けないお子さんに対して、支援はしてあげたいのですが、その子

だけを特別に教えるわけにはいきませんので、「何点以下のお子さんは来なさいね」等と希望制にしても難しく、我々も頭を悩ませている状況です。

(清澤委員) 江戸川区立小学校長会副会長の清新第三小学校校長の清澤です。小学校は、区内で73校あり、来年2校が統合しますので71校となり、合わせて3万5,000人ぐらいの子どもたちが小学校に通っています。

毎朝、「おはようございます」、「行ってきます」と子どもたちは各家庭を出てくるわけですが、その朝の挨拶が各家庭でどうだったかなと思う毎日です。朝、校門に立っていると、明るい顔をして必ずきちんと「校長先生、おはようございます。」と言ってくれる子もいれば、無口で通り過ぎてしまう子もいます。これが貧困につながるかはわかりませんが、その子どもたちの朝の「おはようございます」はどんな気持ちかなといつも思っています。

義務教育の最初が1年生です。先ほども色々な保育の仕方が説明されましたが、その保育を経て4月に小学校に入学をします。その子たちに生活面や学習面、それから心の育ちということ教員は教えていきます。よく学力というものは基礎・基本の点数に出てくると思われがちですが、生きる力、つまり知識をどうやって知恵に変え、どう実行させていくかを学校教育の中では教えていかなければいけないと思います。毎日子どもたちを見ていますと、この子たちが社会人になって、どんな大人になるのかと楽しみな反面、課題も多くあるように思います。

親御さんへの接し方も、さまざまなのが今の現状です。子どもも親も、ある程度の自信と余裕をもって生活ができた方がよいと思います。自信があれば人のことを認めることもでき、余裕があれば全体を見ることもできます。先生方にも自信と余裕を持って指導するよう伝えていきます。教師は子どもたち、保護者が自信と余裕を持って学校生活を送れるようにする役割を担うわけです。中学校を含む義務教育9年間を子どもたちのために、皆様の御意見を聞きながら、地域とともに歩む学校として子どもたちをすくすくと成長させていきたいと思っています。

(教育推進課長代理) 教育推進課すくすくスクール係長の武井です。すくすくスクールでは、先ほど3万5,000人の小学生がいるとお話がありましたが、その6割以上の2万3,000人が登録をして、少ない学校では20名ぐらいから、多い学校では150名ぐらいの参加となっており、73校全校がすくすくスクールに参加しています。

先般行われた子ども・子育てに対する調査でも、100件以上の色々な事例の報告がありました。やはり貧困に関わるのが大変多く、複数の要因が絡んでいるように感じました。

また、貧困に限らず、保護者の養育力不足の問題や、複雑な家庭環境によって、子どもたちが本当の自分を出し、いい時間を過ごせているかを、現場の職員は常に考えているところです。

今後につきましても、学校と地域が連携をして、また保護者の方の様子をうかがいながら、多くの大人の目が子どもに届くよう対応をしていきたいと考えているところです。

(健康部長) 健康部長の松尾です。皆様方には日ごろから健康行政に多大なる御協力をいただきまして本当にありがとうございます。

貧困の話ですが、皆様方のお話を聞いてつくづく思いましたが、子どもが抱える課題、健やかな成長を脅かす課題というのは何も経済的な問題だけではなく、様々なことが複層していると改めて実感したところでもあります。行政としてもひとつの面だけではなく、あらゆる分野が総合的に取り組んでいかなければならない。これが一番肝心であり、その中には江戸川の誇る、地域力抜きには考えられないと皆様方のお話を聞いて実感したところです。

そんな中、健康行政としてこの問題にどうかかわっていくか、今日は2点お話をさせていただきたいと思います。

子どもの健やかな成長を脅かすことについて、貧困の連鎖が言われます。その要因としては学習、教育力の負の連鎖や、もう一つ皆様方からお話を聞いていて実感をしたところですが、健康面での生活習慣の負の連鎖です。喫煙、肥満、あるいは検診を受けなかったり、また食育の面も含めて、マイナス要素が必ずその次世代につながっていくことが見てとれます。区民に等しく健康行政を進めていくということが、やはり大切だと改めて実感したところでもあります。

それから、健康行政として忘れてならないのは、お子さんと特にお母様方との関わり、妊娠から出産、特に乳幼児期の子育てについて、保健師等を中心に強く関わっていかなければならないということです。医師会の先生方や歯科医師会の先生方にもその点を強くご協力をいただいておりますが、ここの部分も今までのように個々のサービスではなく、もう少しお母さん方に寄り添った継続的なサービスとしていこうと思っています。

少し紹介をさせていただきますが、一番お母さん方とお会いできるのが妊娠届のときです。去年は6,400通の母子手帳を交付させていただきましたが、その機会をとらえて、母子手帳、保健バックを御案内をさせていただきだけでなく、来年度からはその時に保健師がつぶさに面接をさせていただいて、健康行政だけでなく保育園の話も含めて、あるいは医療費の話も含めて、健康行政にとらわれず、総合行政の御案内をし、その中でお母さん方から、悩み事を聞き、保健師を頼りにしてくれるような関係づくりを、まず妊娠届のところで行い、一気通貫の寄り添う支援へのきっかけづくりを来年度から行う予定です。

(岩崎委員) 公募区民の岩崎です。私は共働きで、小学校1年生の娘と保育園に通う息子がいます。平日は主人が忙しく、朝も夜も3人で食事をとっている状態です。忙しくて疲れてしまう日には、恥ずかしながらコンビニで買って食べる

というような日常です。

年末年始に実家のほうに帰省しまして、両親や親戚等と一緒に食事をしたときに、子どもたちは祖父母から褒められ、うれしくていつもだったら食べないような苦手な食材を「おいしいね」と言って食べていました。私も心掛けてはいますが、やはり閉じられた3人の空間で、子どもの宿題は見なくてはならず、自分の仕事のこと考えないといけない中では、なかなかゆったりした環境で食事をとっている状態ではありません。

新聞の記事やテレビで最近「子ども食堂」という、「みんなでご飯を食べようね。貧困の家庭の方もどうぞいらっしやってください。困っているお母さんたちも来てください。」という場があるというのを見ました。そういった場があるといいなと、心から私自身も思います。

私は保育園からの仲の良いお友達と、夜の遅くなる日はお互いのうちに子どもたちを預かって、食事をみんなと一緒に作って食べ、夜寝る前にお母さんが迎えに来るということをやっていますが、子どもたちは、苦手な野菜でもぱくぱく食べて「今日はサラダをおかわりできたよ。」とうれしそうに言います。一緒に食事がとれる温かい場というのは本当に大事だと思います。私自身、そういうことしかできませんが、続けていきたいと思っています。

(根本委員) 歯科医師会の根本です。私は歯科医の立場から感じたことを少しお話しさせていただきます。ふだん私が自分の診療所で仕事をしていますと、数十年前は虫歯だらけのお子さんが多かったんですが、今はほとんどそういう方がいらっしやらない。ただ一方、幼稚園とか小学校、中学校の検診に行くと、数パーセントですけれども、虫歯のひどい方がいらっしやるのです。そのような方は、例えば、1年生のときに検診して虫歯がある。2年生になるともっと増え、3年生になるとさらに増えます。結局、親が全然治療に行かせていないお子さんが数パーセントいる。これはネグレクトになるのかもしれませんが、貧困の一つの判断といいですか、救い上げる一つの指標になると感じています。

もう一つは、歯科とは関係ないのですが、最近お子さんの中でLD(学習障害)や発達障害のお子さんが非常に増えているようです。このグリーンパレスにも、昨年発達障害相談センターができましたが、少子化にもかかわらずそういうお子さんたちが増えています。そういうお子さんたちが就業するときに支障にならないように、小学校や中学校では特別学級がありますが、そこで救い上げられないような、普通学級で少しついていけないお子さんをもう少しきめ細かく救い上げることが必要と非常に感じています。

(矢島委員) 民生・児童委員の矢島です。先ほどの話から、学校の先生たちや区の方など、子どもを支援する方が多くいらっしやってすばらしいと思いました。

民生委員も、身近なおじいちゃん、おばあちゃんとして支援したいという気持ちがあります。学校顧問や民生委員という立場で4月から6月の間に学

校を訪問しますが、本当に助けてあげたい家庭の親は無関心であったり、また精神的に弱いお母様が多く、先生が何回訪ねていっても民生委員が何回訪ねていってもお会いできないなど、そういう家庭のお子さんが多くいます。本当にどうやったら助けてあげられるか悩んでいます。主任児童委員の話ですが、学校から頼まれ、毎朝お子さんを起こしに行き、お母さんを起こして、お子さんを学校まで連れていくということを何年かされていますが、その方が悩まれているのは、私が毎朝起こしに行ったら、そのお母さんは立ち直れないということです。そのような中でどうしたらよいかを、民生委員は悪戦苦闘しています。

私は孫ができ、おばあちゃん1年生ですが、私の娘と10カ月の孫が共育プラザに行ったり清新町の子育てひろばに行き、勉強させていただいています。そのような場に色々なことをしても来られない親がいるという事実をどうしたらよいのか、今、自分自身で考えているところです。

先生からお聞きした話ですが、お母さんが精神的に弱く、朝起きられず、子どもに御飯を食べさせないまま登校させ、結局その子供は給食で栄養を補っている子がいて、小学校、中学校の間はそれでいいと思っている親もいるのかと、何かすごく心配だと感じます。

冬休みのことですが、軽度の障害を持っているお子さんを育てていて、虐待が疑われる家庭がありました。そのお母さんも、1人で育てているので、「どうしてもたたいちゃう」と言っており、先生から長い休みに入るのを、民生委員さんが見守ってくださいと頼まれました。全然知らないお婆さんが行ってもやはり玄関のドアをあけてくださらなかったもので、何回かその家の前に行き、大丈夫かな、洗濯物は干してあるかなと見回りました。そのような小さなことしかできませんでした。その後、学校が始まってから先生にお聞きしたら「今のところ何も事件は起きませんでした」とおっしゃっていたのでほっとしました。民生委員はそのような支援をしています。

(平田委員) 東京商工会議所江戸川支部会長の平田です。私どもは、子どもを育てるということよりも「子供の未来応援国民運動」に、商工会議所会頭の三村さん、そして経団連の旭化成会長伊藤さんなどが入って、親の就労支援に力を入れています。機会あるごとにできるだけ多くの人に職を持ってもらうということを勧めていて、特に共働きをしておられるお母さんの就労に関しては神経を使っています。具体的には、できるだけ子どものために勤務時間を短縮するとか、あるいは休暇を取りやすい環境としています。このようなことで、親が保育園に100%世話にならず、親の温かみを子どもの頃から教え、温かみを子どもが察知できるような状況をつくる。少しでも親が子どもを抱いて子どもと接する時間を過ごすことを私どもは大きな目的としております。

それから、一つお聞きしたいのですが、資料3の保育園の平面図の中に医務室がありますが、これは子どもが病気をしたときに機能できるようになっ

ているのですか。それとも、機能はできないけれど、すぐ近所のお医者様と契約ができているとか、あるいは病院との連携ができているということでしょうか。私は、親が子どもから目を離さないということが一番大事であると思います。

先ほどから貧困との話ですが、本当に貧困なののでしょうか。もしかすると、親に働く気がないから貧困生活にならざるを得ないのか。幾らでも仕事はあります。商工会議所においていただければ、もう幾らでも就職のお世話をさせていただきます。中小企業は今、人が足らなくて困っている状況ですから、決して貧困にならない、私はそう考えています。

(若生委員) 認証保育所利用者代表の若生です。私も小学2年生と年少の子どもがいます。子育て支援課がヒアリングした内容の「共働きの家庭が多く、食事の時間が遅くなったり」というのを見たときに、「ああ、自分のところもそうだな」というのをとても感じました。仕事上、夜の10時半まで働く日もあり、そういう日は近くの祖母の力を借りています。パートの方や専業主婦のおうちの方の話を聞くと、夕方の6時に食事をとって、8時には寝かせています。うちではそれは無理だなととても感じています。子どもから「誰々ちゃんのおうちはそういうふうにいるんだよ。」と聞いたときに、親の生活のスタイルに子どもを合わせてしまっていることを感じました。ただ、どうしても共働きするうえでは仕方がないと感じていますので、なるべく子どもがやりたいことには、積極的にお金を使ってやらせてあげようとは思っています。

先ほどのお話にもあったように、私の周りにも貧困というものを感じることは余りなく、金銭面というのはなかなか表に出るものではないのでわかりませんが、来年度から消費税が上がるなど収入は増えないけれども支出が増えてくる。そうすると、絶対子どもたちに影響が出てくると感じています。影響が出ないように、親も子どものために、貧困にならない生活をさせてあげようとするのではないのでしょうか。私の周りはフルタイムで働いている方が多いのでそこまで貧困を目にしていらないですが、母子家庭のお宅等やはり何かしらの大変さがあるので、行政が支援していただければと思います。

(山家委員) 小学校PTA連合協議会会長の山家です。「貧困」という定義がよく分からないので、後ほど説明していただければと思いました。

私も何で貧困になるのかとよく考えるのですが、やはり収入がないからだと思います。行政が収入の面で支援をすることは大切ですが、この支援がちゃんと必要などころにいかなければならない。先ほど林先生からあったように、高級なスマートフォンを持っているような家庭に補助してはいけないと思います。先ほど、平田委員が仕事はありますよと言いましたが、時代が新しくなってくると、様々な就業形態があり、いわゆる起業支援という視点も必要です。私の知っている主婦の方で、インターネットでお金を稼ごうとしてだまされた人がいました。そのようなことがないように支援ができる仕組

みがあれば良いと思います。

また、収入を得られない人がいる一方で、お金のある方が、団体の役員等になるようなことが現実としてあり、そのようなことにバランスが取れる世の中になればよいと思います。

私は、6年間PTA会長を務めました、「男性は力仕事以外は無力」と最近思います。今日出席している風間委員や池田委員などの現場の意見が通るとより良いと思います。

(田中委員) ここまで来ると、皆さんの色々な意見が出尽くしたような感じですが、私が一番感じていることは、いわゆる社会的なつながり、地域のつながり、地域の教育、そういうものが非常に欠けている時代になったと思います。子どもを見守る、世話する、そういう地域の親としての立場や親同士がつながり教え合う、そういうものが欠けてきているし、それをどうやって改善していくかが一番大きな問題だと思います。行政の支援は保育園をつくったり、小学校のすくすくで学校外で居場所のない子どもを支援することは考えられる。ただ、一方で人のつながりに参加しないという親が増えてきたように思います。地域とつながるといことは、災害があったときのお互いの助け合いや挨拶をして話をする、これは自分自身の楽しさにもつながる。子どもを見るということは、みんな賛成すると思うのですが、なかなかうまくいかない状況にあると思います。それをどう改善するかということはいは難しいですね、逆に迷惑をかけることにならないか、それぞれ努力はしていると思います。

青少年育成地区委員会の中で、「あいさつ運動」というものを4月10日までしております。その中でも「早寝・早起き・朝ごはん」という標語を掲げてポスターをつくって、4月ごろに張り出しますが、それは子どもを育成するときだけではなく、地域の中でのそういう関わりをつくってくださいという願いがこめられています。これはどこの責任というのではなく、そういう意識をどのように持たせるかを皆さんが心がけ、それぞれの団体に活動していただければと思います。

(子ども家庭部長) 子ども家庭部長の森です。委員長のお計らいで、皆様から色々なお話を聞くことができ本当に良かったと思います。子どもの貧困は気づかれないうとよく言われます。自分の子どもがそうであることに親も気がついていません。

スマートフォンやファッションは大切だからお金をかけますが、実際に家に帰ると、食事が不十分であるとか、これからの将来について親と一緒に考えることができず、全く夢を持ってない子がいる、そういった家庭が増えてきていると聞いております。

12月に皆さんのところに調査があったと思いますが、子どもの貧困で気になることを伺いました。それをまとめたものを見て思ったのは、ネグレクトの範疇に関わるものが大変多く、子どもの人生を歩む力が育てられていない状況にあり、そういった意味で子ども家庭支援センターはもっとできること

があると思っております。

3月に子ども家庭支援センターは瑞江に引っ越しをしますが、この機会に相談の力を上げていかなくてはならないと思います。少しでも気がついたことを相談いただけるような力を行政はつけていかなくてはいけないと思います。ただ、相談をいただいて子ども家庭支援センターがそれを解決できるかという、色々な問題が錯綜していて、本人も遠慮することもあり、ここにいらっしゃる皆さんと一緒に、解決できるようなおせっかいな地域ができていければと思います。おせっかいでいいと思います。本人が受け取らないこともあります、一言を言ってあげることが大事だと思います。

過去の新聞の記事ですが、昔、虐待を受けて育ったということをお話された方がいました。「今は虐待がこんなに問題になっているけれども、私の子どもときには虐待という言葉もなく、親からやられていることは当たり前だと思って育った。泣いた日もあった。ただ今生きて、こうして新聞に投書ができるようになったのは、そのときに先生が言ってくれた一言や近所の方の一言、それが支えになって生きてこられた。」その方はそう新聞に書いておられました。さきほど、親御さんも弱い方が増えたとの話がありました。確かに私も色々聞いています。そのような方を皆でどうにか支えて、私たちの将来を担う子どもたちを、地域環境のなかで、家庭環境のなかで育んでいきたいと感じています。どうもありがとうございます。

(笹井委員長) 平田委員からお話があった医務室について事務局よりご説明ください。

(事 務 局) 医務室は、特に医師等がいるわけではありません。例えば、保育の途中でお子さんが少し気分が悪くなったり、すり傷をした場合に応急的な処置を行います。病院に行って手当てが必要であれば、少し休ませてから病院に連れていきます。あくまで一時的な処置をするための部屋とお考えいただけたらと思います。

(笹井委員長) それでは、今日全体の議論を通して、追加や補足はありますか。

(事 務 局) 事務局の児童女性課長ですが、先ほどの質問に幾つかお答えしてまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(笹井委員長) はい、お願いします。

(事 務 局) 初めに、貧困の実態が見えないといったお話があったと思います。また、「貧困」の定義がわからないといったご質問の回答ですが、今申し上げている貧困というのは「相対的貧困」のことを言い、所得中央値の半分未満の世帯を相対的貧困者としています。この相対的貧困率が16.3%であり、人数に直しますと6人に1人ということです。

これと関連しまして、貧困になるとどうなるかということ、先ほども話がありましたが貧困の連鎖です。生活保護の大学進学率、ひとり親家庭の大学進学率は50%、全世帯の平均の大学進学率は73%と言われておりまして、その半分が相対的な貧困の一つの指標です。

2050年には少子高齢化で高齢化率は4割、その中で今の子どもたちにできる限り活躍していただきたい。支えていただかないと日本の社会が成り立たないということが問題視されています。今は目に見えた貧困が余り見当たらないかもしれませんが、ただ、連鎖していきますと、貧困の家庭の学歴が下がって、生産率が下がって、生活保護率が上がってしまうと悪循環になるというのが国の一つの指標です。周りを見ても余りわかりませんが、相対的な貧困は、スマートフォンは持てるけれども野菜があまり食べられない、また環境的な貧困は、親御さんの生活力、経済力、あとはしつけなどの倫理的なものが要因だと思われま

す。ご質問のなかで、親の教育力はどのようなのでしょうかといったお話がありましたが、先ほど子ども家庭部長から申し上げたように、余りにひどいネグレクトや虐待の場合は、通報を受けると区の子ども家庭支援センターの職員が直接指導に参りましてお話をします。さらに深刻な場合は、東京都の児童相談所に相談をして、場合によっては一時保護、送致をしています。現に江戸川区でもそういう家庭があります。また、先ほど歯科医師会の先生からお話があったように、放置状態の場合についても、ひどい場合はかかわってまいります。先ほど健康部長から申し上げたように、これからは妊娠初期からこういった貧困対策も含め、健全な子どもの成長にかかわってまいりたいと思います。

全庁を挙げて、今こういう問題に取り組んでおり、先ごろ調査をいたしました。具体的な数値は調査中で申し上げられませんが、江戸川区の場合、若い世帯が多いので国の平均よりは高いと思われま

(笹井委員長) ほかに御意見はございますか。

(山本委員) 青少年育成アドバイザーの山本です。先ほど保育ママさんの体験談がありましたが、認可保育所や小規模保育事業を増やすことは大事ですが、保育ママさんの制度が引き続き存続していただけるかが一番私は気になります。0歳から8カ月ぐらいまでの子育ては一番大事な時期ですので、おうちで親の愛情を込めて子育てをしてもらいたいと思います。一方で、共働きが増えて0歳児を預ける流れもありますので、自分が子育てをしたときのように慈しみながら育ててもらえる保育ママ制度は、その子にとって非常に良いことだと思います。我々の調査のなかで、保育ママさんで育ったお子さんは、青少年期に情操的に非常に良い子になっているといったデータがあります。ぜひ保育ママを増やしていただき、施設が間に合わないところは保育ママでカバーできるようにしてもらいたいと思います。

(事務局) 保育課長茅原です。江戸川区の保育ママ事業は、昭和44年から45年以上続いている制度です。これは江戸川区のポリシーとして、小さいお子さんではできるだけ愛情の深い家庭的な環境の中で育てていくことが望ましいといったところから始まっている制度です。待機児童解消というよりも0歳児の保育

の理念としていますので、これからも堅持していく方針です。

(半田委員) 保育ママでうれしいお話が聞けたので、追加でお話しさせていただきます。物を言えない赤ちゃんの時期に、お母さんたちが最初どうやって育てていいかわからないときに、保育ママはおばあちゃんと娘のような関係で、お母さんたちの悩みを聞きながらゆっくりと育てられるというのが非常に良いと思います。保育ママが終わった後も、「今日保育園で運動会があるの。」「小学校の運動会があるの。」と継続して交流しています。保護者とお子さんとも継続して関われるということは非常に素晴らしいと思います。

(笹井委員長) 皆さん、貴重なご意見をありがとうございました。このテーマは皆さんが深刻に受けとめていますし、何とかしなければと思っていらっしゃるのが改めてよくわかりました。

小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)という方は怪談で有名ですが、世界を転々として最後に日本に住んで、色々な小説を書いた方です。その彼が書いた本の中に、日本人ほど子どもを大切にする国はないと書いてあり、昔から日本という国は子どもを大事にする文化を持っていたと思います。どんなに貧しい家庭でも、昔は苦労しても子どもだけにはいい学校に行かせてあげたいと思っていました。そういった伝統を持った国で、江戸川区はぜひトップランナーになってほしいと思います。

ただ、子育てというのは、基本的には親が責任を持つ話ですが、平成7年、8年から、親だけに任せていたら、子どもの人生にとってあるいは社会全体にとって問題が大き過ぎるということで、「子育て支援」ということが言われるようになりました。家庭教育、家庭の教育力を再生に向けて、親だけに任せ切りだと、その子の人生また社会的にも非常に課題が多いので、より色々な人が関わって社会全体で子どもを育てようということになったように思います。その意味では、行政をはじめ、保育所、幼稚園、地域の団体、住民一人ひとりにも頑張ってもらわなくてはいけない時代になりました。こういった場で議論したことを我々全員が共有して、我々の置かれた立場でできることをしていくということが大切だと思いますので、引き続き建設的な議論ができればありがたいと思います。

3 閉会

(笹井委員長) 長時間にわたりましてご意見をいただきましてありがとうございます。これで本日の会議は終了させていただきます。ありがとうございました。

(事務局 子ども家庭部子育て支援課)